

大阪の教育

大阪教師会

〒596-0814
大阪府岸和田市岡山町
443-13
電話 090 (7363) 9544
振替口座 00910-9-1433

日本教師会教育研究大会延期

仮日程 令和三年八月二二(土)
・二二(日)

令和二年十二月に全国教育研究大会を予定していたが、新型コロナウイルス蔓延のため会場の使用禁止や会員の健康管理が出来ない等で延期することに本部との調整で決定した。しかし新型コロナウイルスの感染状況によっては、更なる検討が必要となるであろう。新型コロナウイルスのワクチンができない限り、先行きは不透明であると考えている。大阪の先生方の話し合いでは、令和三年八月を予定して会場を仮予約している。

実施可能ということになれば、万難を排し先生方の参加をお願いすると共に、質疑応答には忌憚らない議

論を交わし、発表者、参加者共に満足する内容になればと考えている。

コロナ禍における授業風景

六月前半は、隔日登校、後半は平常通り登校し授業が行われているが、前学年の未習單元があるため、スピード授業、俗に言う、一方通行というか、レクチャー、或いは、プリントの穴埋め授業、知識詰め込み授業に、心ある教師は「塾、予備校のような授業になっている」と言う。「多くの子どもたちは授業について行けていないようだ」とも言う。理科実験は「3密の一つに該当するため実験はしないようにと管理職からの指導がある」という。

教師の方も3密を意識して注意が増えているともいう。

新学習指導要領に基づいた授業設計を

通常でない夏休みが明け、二期期が始まった。先生たちは、積み残された教材を二期期に回したものの悩みはつきない。そこで知識の定着を確実なものにするために宿題を沢山出す。しかし、子どもによっては消化が難しいようである。

そのため、親が教えるが教師のようにはいかなので親は悩んでいる。この二週間の夏休みの宿題の出来不出来を評価にせず、子どものつまずきや悩み事を発見し、それを学習課題として、子どもたちに提案し、皆で解決策を出し合っていくことが主体的・能動的な・対話のある授業となり、深い学びに繋がる授業となれば「主体的な、協働的・対話的な、深い学び」に繋がるのである。宿題の答え合わせの授業だけは避けたいものである。

授業改善のために、コロナ禍の夏休みをチャンスに、問題解決の学習・問題解決的な学習の真意を捉え、子どものための授業作りを創造して、どの子どもが生きていて授業に参加している姿を描きながら、授業設計

をして欲しいものである。

子どもが発言したくなる授業

I まず教師が長々

説明・解説するのをやめる

○基本的に教師と子どもはズレている!?

私の知り合いの理科の先生。半年の理科研修で学校に復帰して担任として理科の授業をしてくれた。4年の空気の働きの単元である。先生が研修で身に着けた知識を披露する。空気が圧縮すると温度が上がって発火する知識を与えようというのである。

が子どもたちは教師の空気圧縮による発火実験を見たいとは思っていない。

子どもたちはそれを見て何を考え、何に疑問を持ったかということが教師側に想定されていない。ただのマジックショーでしかない。(自己満足)

このような事例をあげれば数え切れないほどある。中には、実験をさせるときに器具の扱いから実験中のこと更に結果まで説明をする。

子どもたちは、早く実験をして結果をだしたいと考えているが、実験が出来ない。実験が始まり、結果が

教師の考えたことと違っていると、「この班の人は先生の説明を聞いていなかったから他の班の結果と違ってしまったのですね、次からはちゃんと聞くようにしなさい」という指導が入る。

教師の長い説明が終わると「何か質問や分からないところはありますか」と聞く。教師は子どもの顔を見ると不安になり、また説明が始まる。

「では道具を取りにきて実験を始めてください」その時はすでに20分経過残り時間は25分、「教師の問題」を「教師の実験方法」で「実験」し「答え」を出しているだけである。

でも、実験結果が教師の考えている内容になっていけば顔の筋肉が緩んでいるようである。

子どもたちは実際に動き出さないと自分の問題として捉えられないので、説明しているときに質問などできないのである。実験道具を取りに行つて、セットするときに「どうするんだったかな？」となる。子どももつてそういうものだということできき合わない、生き生きした問題解決の学習は成立しないものである。教師の思うことと子どもの思うことがズレているからこそ、実験したり、調べたり、読んだり、話し合ったりして内容のある結果・結論が出るのである。

II 教師は自分の発言の影響力に気付こう

○教室全体に向けて話しているか

「授業中に、子どもたちのつぶやきをきちんと聞いて、それに対応するように」これは昔から先輩によく言われてきた。ここでいう子どもの「つぶやき」とは、挙手しないで座ったまま発言というか、喋ることである。

例えば、算数などである子が「先生、これって15ページからやるんですか？」と座ったまま質問したりする。教師は黒板に向かって、板書を続けながら、「ああ、やっていいよ」と返事する。この子は教師との間ではやりとりが成立している。

ところが、教室には他の子どもたちもいて、なんとなくそのやりとりを聞いている。

子どもAえつ、何をやっていいって？

子どもB今、何の話だった？

子どもCほかたちに関係あるの？

他の子どもたちは不安になり、隣同士で私語が始まる。

ここで教師が、「はい、静かにしてください」と一喝するとしらけてしまう。

なぜこのようなことになってしまふのだろうか。

教師は「15ページからやるんですか？」という会話を、もう済んだことだと思っているが、他の子どもたちはよく分かっている。当然質問が出てくる。

子ども「先生15ページからやるんですか？」

教師「その話、さっきしたよね」

子ども「えつ、したんですか？」

教師「友達の質問も、自分の質問と思つて聞きなさい」

確かに教師の言っていることは、正論である。しかし、よく思い返してほしい。

最初の子どもの質問に、教師は教室全体に向けて答えていたのだろうか。

○個人に話すときは、最初に名前を付けることが大事である

もし、質問した子ども個人に話すならば、最初に名前を付けることである。

「山本君、それでいいですよ」と言えば、他の子どもたちは「今は、山本君に言ったんだ。私には関係ないんだ」と安心するであろう。

でも、しばらくして再び「ねえ、先生15ページからやるの？」と子どもたちから同じ質問が出たら、「そ

か、この質問は複数の子どもから出てくるんだ」と気付くはずである。その時は、対応を変えなければならぬであろう。

教師「はい、ちょっとストップ。15ページのところで質問したくなる人が何人かいるようなので、みんなにお話しするね」と言えば、伝わりやすさは格段に上がる。

○教師が背中を向けた瞬間に本音が見える。

話をするとき自分の気持ちよさだけで進めると、子どもたちと「理解」の「ズレ」が生じていることに気付かないものである。教師と子どもとの間にズレが生じたときは、たいてい教室がざわついている時である。

騒がしくなるのは、教師が子どもたちに背中を向けたときである。子どもと向かい合っている時にはそこまで騒がしくならない。背中を向けた瞬間、子どもたちはチャンスとばかりに「どうする？」「えーわからんよー」と騒ぎはじめる。

ところが、自分が後ろを向いたせいで騒いでいると思つていざい、静かにしなさい」と注意するだけになる。せっかく子どもたちから出ている信号を、キャッチ出来ずに

スルーしてしまう。

子どもの本音は、教師が背中を向けた瞬間に見える。それは何なのか。騒がしくなったときが子どもの本音を確かめるチャンスである。

Ⅲ 大人と子どもの「5分」はちがう

○ぎりぎりまで待つ

かつて小学校低学年を担任したときの話である。一日中体操服で過ごし、下校時間に着替えて帰る時に、子どもたちは大変時間がかかる。だから遊びながら着替えるからである。教師はいらだって「いい加減にしない、あと何分かかるの？」と怒る。小学校ではよくある光景である。

こういうとき、私の場合は「もう我慢ができない、あと何分かかるの！」というところまでは黙っていて、そこから5分間仕事を作って教室から出て行く。例えば、印刷室まで行って、学級通信を印刷して戻ってくる。

戻ってきたら、教室が別世界になっている。どういうことかというところ、子どもに比べて大人の時間の進み方のほうが5分早いということなのである。5分間子どもに与えれば、教室が静かになる。それに気付くと、

子どもたちに任せることが面白いと言えるようになる。

ただし、ガマンできなくなるギリギリのところまでは教室にいなければならない。「いつもなら、ここで叱るところだな」と思ったときに、5分間わざと仕事を作って消えるのである。

また、次のような経験がある。学級が荒れている時は、私語が多くあり、授業ができない場面がある。そんなときに、「しばらく時間をあげるから、思い切りお喋りしてください」と言う。

静かになった頃合いをみて「授業を始めていいですか」と聞く。すると「いいです」と言う。時間にして5分間ぐらいで落ち着く。勿論、子どもにとつて興味関心、必要性を感じるような授業を準備することは忘れてはいけない。

○仕事に集中すれば、イライラが消える

その時間に、子どものノートを読んでコメントを書き、その日のうちに返却するようにしている。さらにロング休憩の時間とか、給食を食べ終わった時とか、イライラした時にノートを見るといったふうにした。

集中してやっていると、自然とイ

ライラは消えるものである。

帰りの会が終わるころ、担任からノートを返却する。その時に褒め言葉を添える。このようなことを毎日繰り返すことで、担任からの注意も減って好循環の学級になっていくものである。

○声がけ一つで楽しむようになる

子どもの発言に対して、教師はどのような評価（指導）をしているだろうか。正解を求めるような発言を求めると、できない子どもは発言しやういが、そうでない子どもは不安で発言が出来なくなる傾向がある。

そこで、正解を求める前に、予想段階がある。その予想の仕方（方法は大きく分けて3つある。それをすることで不安を感じている子どもでも発言が楽しくなるという。その方法は、①「きつと・・・と思います」「理由は・・・です」

②「たぶん・・・と思います」「理由は・・・です」

③「なんとなく・・・と思います」理由があれば発言を求める。なければそれでもよい。（全員が意思表示する）全体で自分の考えの位置関係が分かり自信を持つようになる。

（次号へ続く）

教育風鈴

勉強を楽しむ

赤司 久明

授業も個人指導も楽しかった。ところが、ある時期から、変な生徒が増えてきた。偏差値は良いのだが、勉強を楽しんでいない。

特に古文で目立つ。どうやら塾で変な指導を受けているらしい。本文より問題を先に読めとか、早くやるのが一番だとか。こういう生徒は頭を揺さぶってやる。

関西の国立トップを志望する女子が来ていたが、こう指導する。

まずこう聞く。「古今集はいつできた？、編集者は？」女子「905年。紀貫之です」つまりらぬ質問という顔をして、さすがにさつと答える。「最初の」と誘うと「勅撰集です」とまたさつと答える。「勅撰の意味は帝が命じられたからです」と邪魔くさそうにさつと答える。私が「国家の未来ということだな」と補足すると、エツという顔をしている。更に「世界の歴史で国家の事業で詩集を作ったというのはほかにある？」と聞くところ、そんなの考えたことがなかったという顔をして私の顔を見る。「日本が本当に文化国家だったということ」と念を押して、話を戻して「古今集

で一番多く歌が入っている作者は誰？」と聞くとちよつとまじめになつて「紀貫之です」とまたさつと答える。私は「編集を命じた帝の歌が一番多い筈だろう。自分が最優先の時代だから、その次は撰政・関白の歌で、その次に多いのは左大臣とかの歌の筈」というと、この女子はあつげにとられて、この教師何を言っているのかと私の顔を見ている。頭を混乱させておいて「身分で選んだのではないなら、何だ？」と聞くとあわてて集中心を取り戻したという感じで、「歌の上手さで選んだ筈です」と、さつとでなく考えながら用心して答える。私「歌の上手さ？ なんだそれは？」と言うと、さつと言えなくて考え込んでいる。

ここで私は「これは古今集の序文だ。古文だが、これを読んで来なさい。まともな話はそれからしよう」といつてプリントを渡す。この女子は、暗記ではない、文法でもない、文の意味でもない課題を与えられて、初めて意欲をかき立てられた顔をして帰って行った。

次週、多少不安な気持ちを表しながら顔を輝かせて「しっかり読んで来ました」と言う。私は「うむ、まず古今集とは何だと言っている？」と聞くと、よく聞いてくれたという感

じで、「中国文化ではない、日本独自の文化を輝かせる為に、この古今集を編集したと言っています」としっかりと答える。

覚えてきたことを返事するのではなく、内容を自分で判断したという楽しさと、これで良いのかなという若干の不安とスリルで心はずませている。私は「こりうなすぎ、」では歌を選ぶ基準は何だと言っている？」と聞くと、これは不安そうに「技巧の程度の高さと言っているように思うのですが・・・」と言う。

私「うむ、文中の業平への評価の部分をしっかりと読んだな」と、返すと、本心に心からの喜びと安心を表した顔になっている。

こうして勉強は楽しいんだよと経験させると、解答など余り気にしなくなる。私と問答をして内容に深く入っていくのが楽しくて仕方ないという感じになって、生徒の勉強への姿勢がグッと変わっていくのを感じるのが私の楽しみであったのである。

協賛校名一覧
21世紀は私学の教育力で

天満学園太成学院大学高等学校	大阪暁光高等学校	履正社高等学校	興國高等学校	東大阪大学敬愛高等学校	淀之水学院昇陽高等学校
----------------	----------	---------	--------	-------------	-------------

P・KIDSスクール	香ヶ丘リベルテ高等学校	四天王寺中学校・高等学校	清風南海中学校・高等学校	清風中学校・高等学校	相愛中学校・高等学校	早稲田攝陵中学校・高等学校
------------	-------------	--------------	--------------	------------	------------	---------------